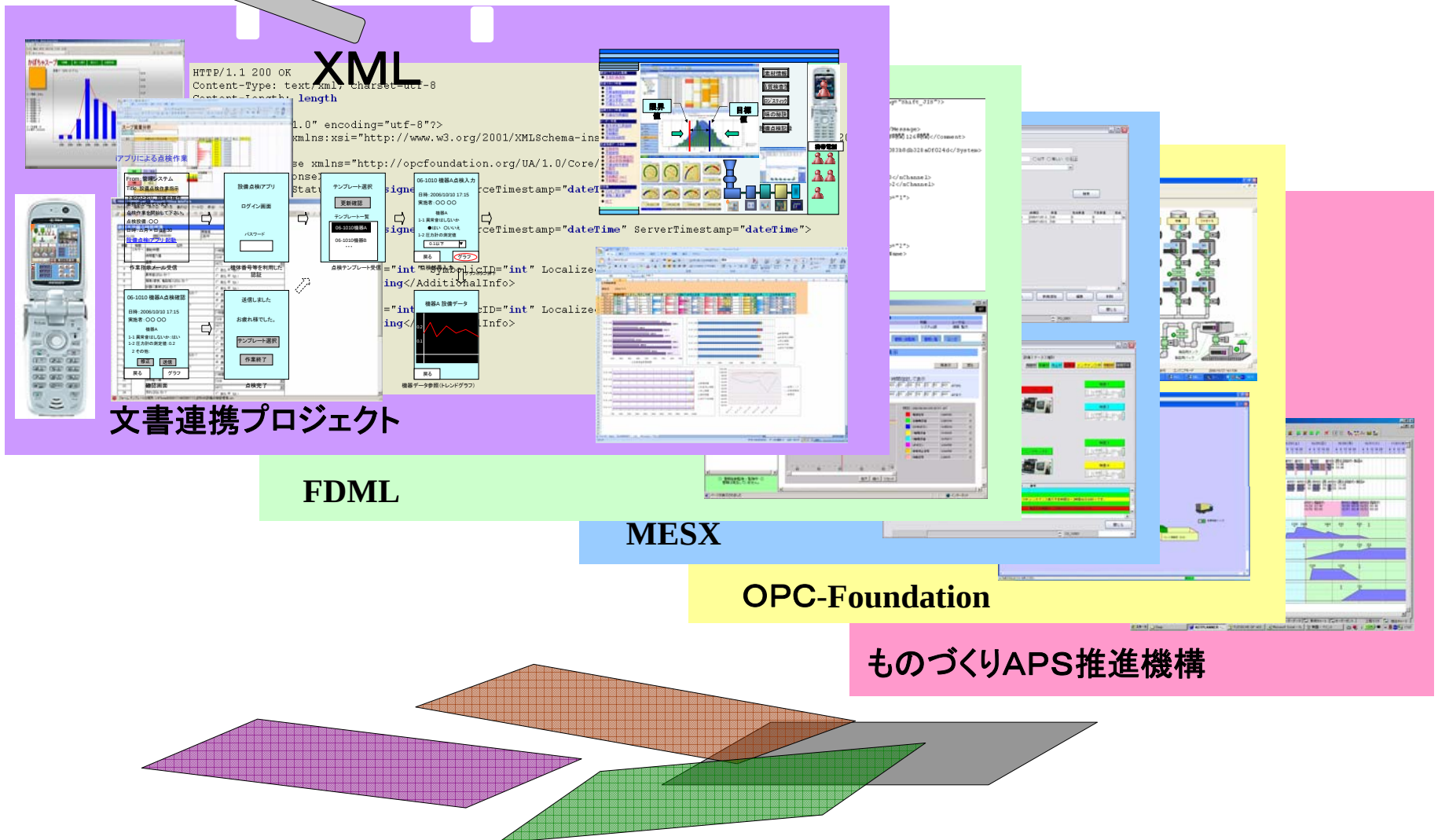


文書連携プロジェクトでのXML構想

各部門別に、業務上使用する情報をポータルな環境で使えるようにするには、XMLやWebサービスの技術をベースとしたインフラを整備していくことが肝要と思われる。
その為にも、他の標準化団体の仕様を持った機器やデータベースなどとは、XMLでの取り合いが有効である。

文書連携プロジェクト



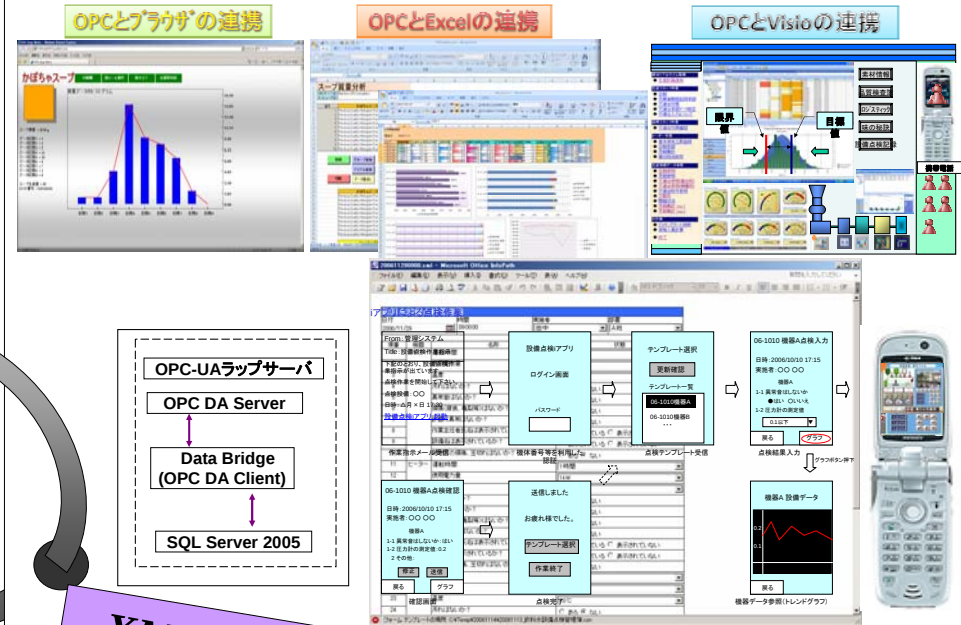
MOF2006合同デモ展示説明

標準化団体の島をつなげていくことで、ユーザが求めるミッションの環境を構成しやすくなる。
まだ、全てができる訳ではないが、「見える化」「スピード化」「差別化」に集中できるインフラを整備することが可能となる。

ものづくりAPS推進機構



製造業XML推進協議会 文書連携プロジェクト



日本OPC協議会

前工程



後工程



XML

```
HTTP/1.1 200 OK
Content-Type: text/xml; charset=utf-8
Content-Length: length

<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<soap:Envelope xmlns:soap="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" >
  <soap:Body>
    <ReadResponse xmlns="http://opcfoundation.org/UA/1.0/Core/" >
      <Value Status="OK" >
        <Value>xml</Value>
      </Value>
      <Value Status="OK" SourceTimestamp="dateTime" ServerTimestamp="dateTime" >
        <Value>xml</Value>
      </Value>
      <Diagnostic Namespace="int" SymbolicID="int" LocalizedText="int" >
        <DiagnosticInfo>string</DiagnosticInfo>
      </DiagnosticInfo>
      <AdditionalInfo>string</AdditionalInfo>
    </ReadResponse>
  </soap:Body>
</soap:Envelope>
```

マニファクチャリングオープンフォーラム 合同デモシステム構成

